

市民フロンティア



CS 神戸は、**自立と共生**を目指し、より良い社会のために主体的に活動する人々をサポートするとともに、自らの活動を通じて、誰もが尊重され支えあう地域社会の実現をめざします。

2016年6月25日発行 **通巻 79号**



『DNA』は永遠に！！ ～CS 神戸の 20 年～

相談役（前・副理事長）坂本 登

今年 10 月 1 日で CS 神戸も満 20 歳となります。多くの方はこの間のことを聞かれますと長かったような、短かったような感想を述べるのが普通のようなです。仔細に振り返れば長く、俯瞰してみれば短かったと思えるからでしょう。私もまだ 1 歳の誕生日も迎えていない CS 神戸に参加して以来今日まで共に活動して来、このたび退くことになりましたが、振り返ってみて同じような思いがしています。

この 20 年間、多くの方々が CS 神戸の活動に参加して下さいました。ボランティアとして会員としてスタッフとして役員として直接活動に参加して頂いた方々だけでもざっと数えただけで 2,000 人を超えます。このほか、行政や福祉関係団体、各種協同組合、一般企業、地域自治会、大学、他の NPO 団体などなど、実に多くの関係者が支援して下さいましたし、今も支援を続けて下さっています。

この間、CS 神戸は阪神・淡路大震災直後の身近な支援活動から出発して、より福祉の充実したコミュニティづくりを目指し、活動家育成の研修や人々を結びつける紹介事業、まちづくりプランの提案、行政に代わる公共財の管理・運営、高齢者の居場所づくり、介護事業調査、さらには東日本大震災への支援など 150 を超える事業を展開してきました。また他方では、中間支援団体として、独立して NPO コミュニティ事業（CB）をしたいと願う意欲あるボランティア団体の起業を支援し、これまでに 100 を超える団体に直接資金を補助したり相談にのったりしてきました。

これらの活動を続けられて来られたのも CS 神戸の理念、活動に共感していただける支援者があってのことです。いま CS 神戸は過去を総括し、未来を展望する 20 年誌を編集中です。成功、失敗ともに記載し皆様の評価を頂きたいと願っています。

ある科学者が言うには、「有史以来、生者必滅が道理だが、ただ 1 つだけ滅びないで生き続けているのがある。それは DNA だ。」だそうです。他の全ての生物はこの DNA から見ると一時的な宿主に過ぎません。**CS 神戸の DNA は「自立と共生」による社会福祉の増進です。**担い手は私同様、宿主の運命でいずれ消えていきますが、CS 神戸がある限りこの DNA は生き続けて新たな宿主のもと社会に奉仕することを願っています。

2016 年度理事会・総会報告

2016 年度 理事会・総会を開催しました



2016 年度通常総会が 5 月 29 日（日）午前 10 時 30 分～12 時 20 分まで、CS 神戸事務所にて開催されました。理事長をはじめとした理事を含む正会員 17 名（うち 4 名が書面にて参加）、陪席としてスタッフ 14 名、計 31 名が出席しました。審議の結果、第 1 号議案（2015 年度事業報告および決算）、第 2 号議案（2016 年度事業計画および予算）、第 3 号議案（役員改選）が可決・承認されました。

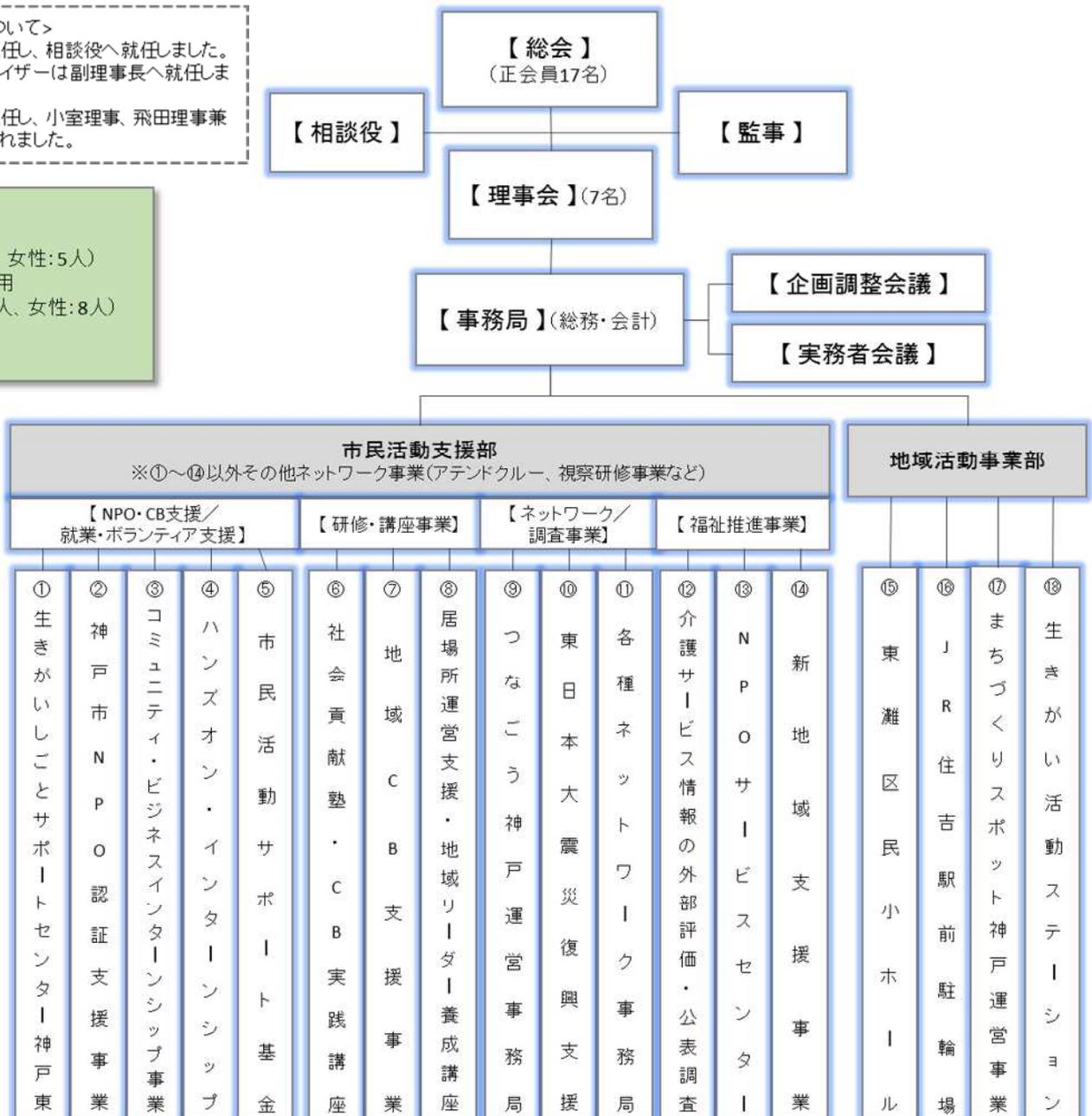
當間監事が過去 5 年分の経営分析を行った結果を報告し、①CS 神戸の事業規模は 7～8 千万、②経常利益率（2%前後）は中小企業と同程度、③経常費用における人件費は 6 割程度（介護施設と同様）であることがわかりました。

また、総会に先立って 2016 年度第 1 回理事会を同日午前 9 時 30 分～10 時 20 分に開催し、理事 4 名、理事長、副理事長、監事 2 名、トータルアドバイザーが出席し、総会に提案する諸議案を審議して決議しました。さらに、総会后ただちに新人事に基づく第 2 回理事会を開催し、新副理事長、新理事 2 名を含めた計 6 名が出席し、現・中村順子を引き続き理事長に選定しました。総会における報告につきましては、3 ページ以降をご覧ください。

【2016 年度（平成 28 年度）組織図】

<役員退任・新任について>
 ・坂本副理事長が退任し、相談役へ就任しました。
 ・星野トータルアドバイザーは副理事長へ就任しました。
 ・中村(厚)理事が退任し、小室理事、飛田理事兼事務局長が新任されました。

<スタッフ構成>
 ■常勤・準常勤 9人(男性:4人、女性:5人)
 ■非常勤・臨時雇用 21人(男性:13人、女性:8人)
 ■ボランティア 約150人



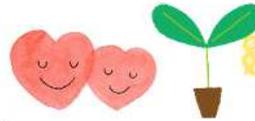
2015 年度事業報告

地域の平和と繋がりを広げてきました

市民活動支援部 ～ 相談・講座・助成を通じて、市民の活動を支援します ～

✓ 生きがいごとサポートセンター神戸東/神戸市 NPO 認証支援事業

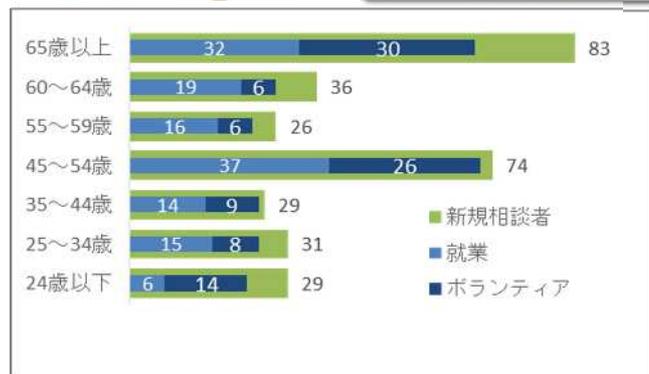
面談による相談は、年間 1,994 名の方と相談を行いました。そのうち、起業相談者は 109 名で、児童デイサービスや障がい者支援の団体が突出して多くなりました。就業の新規の相談者は昨年とほぼ同数の 300 名で、60 才以上の定年延長の義務化、再雇用制度の普及が進み、65 歳以上の相談者が圧倒的に多い 1 年となりました。さらに、昨年同様、ボランティア希望者の多さも際立ちました。



"生きがい" への一歩を応援します



起業成立数 36 団体 (うち拡充 6 団体)



就業成立者数 (139 名)

神戸市 NPO 認証相談窓口事業では、神戸市で新たに認証された NPO 法人 31 団体のうち 8 団体の設立サポートを行いました。運営相談数は前年比 2 倍の 130 件となりました。

NPO の基礎知識を学ぶセミナー「NPO のつくり方」は、全 2 回とも定員 15 名を越す参加者 (第 1 回 : 21 名、第 2 回 : 20 名) となりました。セミナー受講から具体的な起業へつながることを想定していますが、講座の受講のみで終わってしまうケースが多く、個別相談へつなげることが課題です。(山村弘美)

✓ ハンズオン・インターンシップ事業

4 年目となった今年度は、引き続き就労困難な若者を対象に、就労を目標に据えた体験型の研修を実施しました。年間を通して 8 名のインターンを受け入れ、うち 4 名の進路が決定しました (一般就労 2 名、福祉就労 1 名、大学復学 1 名)。

今年度の新たな取り組みとして、第一に、就労困難な若者について広く社会の理解を促すことに努めました。具体的には、企業団体や個別の企業に本プログラムの趣旨を説明し、体験就労の依頼をし、受け入れをしていただいた企業もありました。第二に、メンター (助言者) とは異なる立場でサポートする「協力者」の尽力をいただきました。インターン生の就職活動をサポートしていただいたほか、共に発送作業等を行うことで、インターンのコミュニケーション能力を高めることにつながりました。(山村弘美)

✓ 全県展開事業



丹波市地域での CB 支援活動の 3 年目となった今年度は、①丹波地域における CB 起業相談、②起業支援講座の開催、③先進 CB 事例見学バスツアー、④CB 事例集の作成を実施しました。

丹波市および丹波市の中間支援組織「NPO 法人 gift」と連携し、起業相談を通じての NPO 法人設立の支援、「TAMBA 地域づくり大学」の受講生を中心とした参加者による淡路島の営農組合、古民家利用、6 次産業化の事例見学会を実施し、参加者から高評価をいただきました。また、全県活性化を分担している県内 6 生きサポが協働し、但馬、丹波、淡路島の 9 事例を紹介する、全県活性化 CB 事例集「ひょうご地域創生コミュニティ・ビジネス実践集 ハタラクをつくる」を作成しました。(森本泰司)

✓ 市民活動サポート基金／スマイル♥テッド基金

市民活動サポート基金では、年 2 回の選考委員会を経て、下記団体へ助成金を交付しました。熱意ある団体が多く、予算を超過して 1,100,000 円の助成額となりました（累積助成はのべ 126 団体、総額 39,456,000 円）。また、昨年創設した「スマイル♥テッド基金」は今年度 3 団体に交付し、総額 500,000 円の助成を完了しました。（山村弘美）

■市民活動サポート基金

団体名	事業名	金額
ひろばを活用した屋体操プロジェクト実行委員会	ひろばを活用した屋体操プロジェクト	200,000円
NPO法人子ども育ちわたし育ちMadrina	ママクラブ ～子育てママのキラキラみつけ！！	200,000円
神戸・灘おもちゃの病院	おもちゃの病院運営	50,000円
本庄コミュニティ「ひだまり」	水曜・ひだまりの集い	100,000円
舞子坂ふーみん	地域の住民の元気を引き出す居場所と役割のあるまちづくり	150,000円
居空間RoCoCo	地域いきいき活動 － 高齢者と中高年・おやじも輝く街づくり	200,000円
NPO法人International Community Island	児童養護施設への出張英会話教室	200,000円

■スマイル♥テッド基金

団体名	事業名	金額
Panchii Farm	農産物直売	100,000円
NPO法人gift	あなたと作る地域の未来相談会	100,000円
NPO法人サウンドウッズ	市民参加で行う丹波地域人工林調査	100,000円

研修講座／ネットワーク事業 ～ 人材育成や他セクターとのネットワーク構築につとめます ～

✓ 社会貢献塾・CB 実践講座

前身の研修から数えると 7 年目の実施となる「社会貢献塾」はシニア層を中心に 31 名が計 10 日間のプログラムを受講しました。その結果延べ 16 名が N P O 活動等にマッチング、4 名がアドバンスドコースである「CB 実践講座」にすすみました。講座終了後も、ワラビー、生き活、まちスポ神戸にて、しつこく（！？）フォローアップをしています。

「CB 実践講座」は 25 名が参加、8 名が起業および起業準備に入っています。事業内容は、自治会の立ち上げ、コミュニティカフェ、地域の居場所など、地域に必要なサービスの創出となりました。一方で公開講座から継続的な通常講座への参加者が少なく、プログラムの在り方に課題も残しました。（飛田敦子）



✓ 地域 CB 支援事業（相生 CB）

県内の生きサポ未設置地域である相生市で、CB 担い手養成の連続講座（11/12・12/10・1/14、2/3 はオプションで事例見学ツアー）を実施しました。

自治体の規模、参加者数がコンパクトなことから、委託元や参加者のニーズをできる限り反映することができました。業務は、効率的に企画・準備・運営・振返りを行うことができ、また、本来の担当業務にこだわらず、スタッフが CB 事業に講師として関わることができました。

今後、遠隔地からこういった事業委託を受けた場合、講座終了後のフォローアップをいかに効果的に行っていくかという点が、検討課題です。（藤本隆）



福祉推進事業 ～ 高齢者が安心して過ごせるまちづくり・縁づくりをしています ～

✓ 神戸市生活支援サービス基盤整備事業



当該事業の一環である、神戸市主催の「生活支援・介護予防サポーター養成研修」を2015年度も実施しました。申込者数は受講者数(60名)の約2倍(東部)と約4倍(西部)で、性別は東部(男性30%、女性70%)、西部(男性40%、女性60%)でした。研修初日のアンケートでは、シニア層の多くは「人と関わりを多くもつ地域の活動をして生きがいとしたい」という意向が強く現れていました。また、地域でのボランティア活動の参加体験については大半が未経験者でしたが、研修の最終日のアンケートでは、東西とも受講者の90%以上が積極的に地域の活動に参加したいとの回答でした。

この事からも地域活動に対する関心度がこの研修によって高まり、CS 神戸あげでのフォローアップによりマッチング率(地域活動者数÷受講者数)は50%を超えています。(小林清隆)

地域活動事業部 ～ 地域密着型の事業を展開しています ～

✓ JR 住吉駅前駐輪場

利用者の要望やクレームに対応する改善案をスタッフ全員が考える仕組みにして、原付駐輪場の車間区分ライン引きや老朽化した設備・看板のリニューアルを実現するなどの成果を上げました。手作業記録であった日々の作業報告、売上日報などをスタッフ全員が PC 操作で記録できるようにし業務効率化を実現、運営マネージャーがシフト勤務することを始めて業務改善がスムーズに実現できるようになっています。



障がい者の方が指導業務でワークシェアを行い、又、春・秋に駐輪場周辺の落ち葉の清掃を、障がい者施設5団体から有償ボランティアの参加協力を得て実施し、延べ参加者は前年比28%増です。

トライやる・ウィークでは、障がい者の方と学生とが一緒に清掃活動を実施、インターンシップ就労体験、災害寄付や地域クリーン作戦などの地域貢献活動を継続しています。(柳井俊郎)



✓ 東灘区民センター小ホール

指定管理者として第3期(指定期間:2014年4月～2018年3月)の2年目として、施設の管理運営業務、貸館業務、地域文化活性化事業、自主事業を実施しました。今年度は、スタッフによる一人1企画の実践し、スキルアップの向上を行ないました。今後は、アートマネジメントの研修に参加して芸術舞台の勉強を行い、限られたスペースで何が出来るか、何が地域で必要とされているかを実践して行きます。また複合施設として館内ミーティングを実施して館内のコミュニケーションがスムーズに図れるようにしました。

1. 貸館事業

利用件数は、通年使用の児童向け団体が夏休みや台風による警報などで行事中止が続いたことが影響して減少しました。一方で利用人数は、人数の多い団体がイベント申込をしたことにより、増えました。

2. 地域文化活性化事業

地域に住む人々の文化受入れを広げていくため、地域文化の発掘・育成・支援を目指し、真の文化拠点となるように地域文化活性化事業を進めました。

- ① 8月に日本の伝統文化に触れることも能楽教室(能楽小鼓体験教室)実施
- ② 2月に創作ダンスで身体表現を学ぶ「「もしも」こんな「もたらそう」がいたら?」を実施
- ③ 3月に地域を知る「東灘名所めぐり」～1Day フェスタ～知る・見る(写真、映像、講演)鑑賞(灘の酒造り唄)聴く(落語で東灘名所めぐり)を開催

3. ひがしなだ区民カレッジ

ひがしなだ区民カレッジは、昨年に引き続き 3 人の市民講師と 6 人による講座を 86 回実施しました。(「片付けセミナー」「英語で遊ぼう」「楽しいピアノグループレッスン」「アートフラワーお正月飾りアレンジメント」「姿勢のひみつ」「腰痛の自己管理」など)

4. 自主事業

定例講座、文化祭、親子で学ぶ防災教室などを実施しました。前回までの阪神淡路大震災の追悼音楽イベントから親子持ち出しの防災ワークショップへ変更して、災害時どのように行動したらいいのかを考える為におもちゃ交換を取り入れた「イザ！カエルキャラバン in ひがしなだ」として約 600 名の参加がありました。(兵頭修也)



✓ まちづくりスポット神戸

商業施設内に設置されたコミュニティスペースを大和リース（株）と CS 神戸が協働で運営にあたる「まちスポ神戸」の取り組みを始めて 2 年 4 ヶ月。2015 年度は、13,476 人の来館者を迎え、会員登録数も 23 団体増え 49 団体となりました。

大和リース（株）からコミュニティルームの管理運営が移管され「利用者視点」に立った運用で稼働率を高めることが出来、団体の活動も活性化。また、一般利用者が、まちスポ神戸の活動に関心を持ち、相談を経て会員登録するケースも生まれました。

まちそだて相談では、活動 2 年目を迎えた団体からの運営相談が増加。また、自分の住む地域での居場所開設相談が増えました。居場所開設に当たっては、社協やあんしんすこやかセンターとも連携を図り、時には「ふれあいのまちづくり協議会」の協力を得て開設するなど地域との接点を持つことが出来ました。

前年に開催した第 1 回「まちスポ神戸ふれあいまつり」は、事務局主導でしたが、2015 年度の第 2 回は学生の協力やステージ出演、kids ボランティア体験隊（2 日間のべ 79 人が活動）の大活躍もあり、2 日間のべ参加者数は 5,119 人と実行委員会メンバーの主体的なまつりに成長し、学生との連携の芽も育ち始めています。(向山良子)



✓ 生きがい活動ステーション

①情報提供・相談、②講座・サロン、③トライやるサポート、の 3 本柱です。マッチングが 111 名、立ち上げ・拡充団体が 8 団体となりました。

「情報提供・相談」は生きがい活動ステーション（以下、生き活）がある六甲道勤労市民センターの利用者に対して積極的に声をかけ、認知度の向上と機会の提供につとめました。1 年間の情報提供者は延べ 9,330 人となり昨年度を 1,000 人近く上回りました。相談件数は延べ 1,513 件となりました。

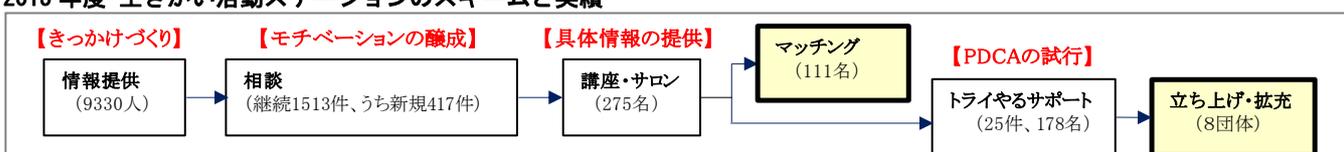
「講座・サロン」では身近なテーマで語り合う「交流サロン」を 18 回実施、灘周辺で活動する実践者を招いた「市民塾」を 8 回実施、地域の居場所づくりに関心がある人を対象とした「居場所サポーター養成講座」を 1 回実施し、延べ 275 名が参加しました。

「トライやるサポート」では、主に立ち上げ前に PDCA を試したいという人、仲間集めをしたいという人、講師デビューの練習をしたい、という人など 25 件の実施があり、178 名が利用しました。

目標値はクリアしましたが、一方で昨年度からの懸案事項であった、地域団体との連携はあまり進まず、次年度に課題として持ち越しました。(飛田敦子)

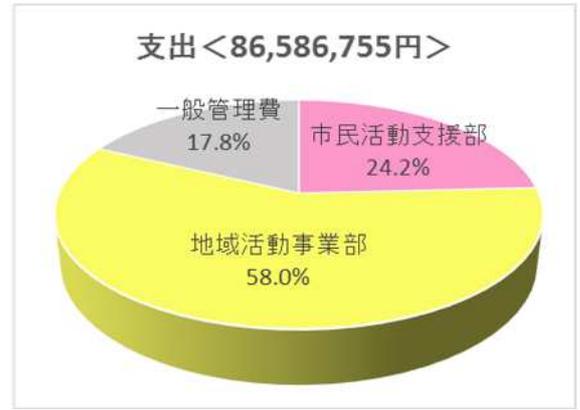
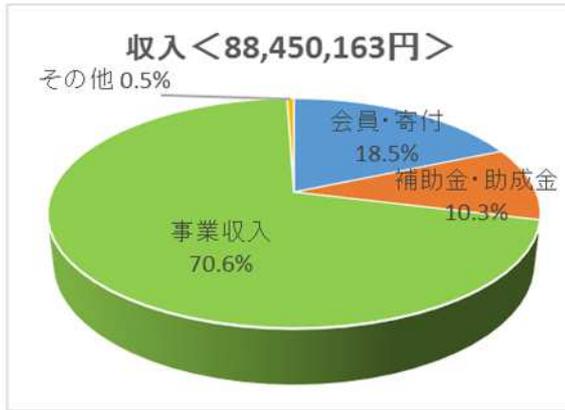


2015 年度 生きがい活動ステーションのスキームと実績



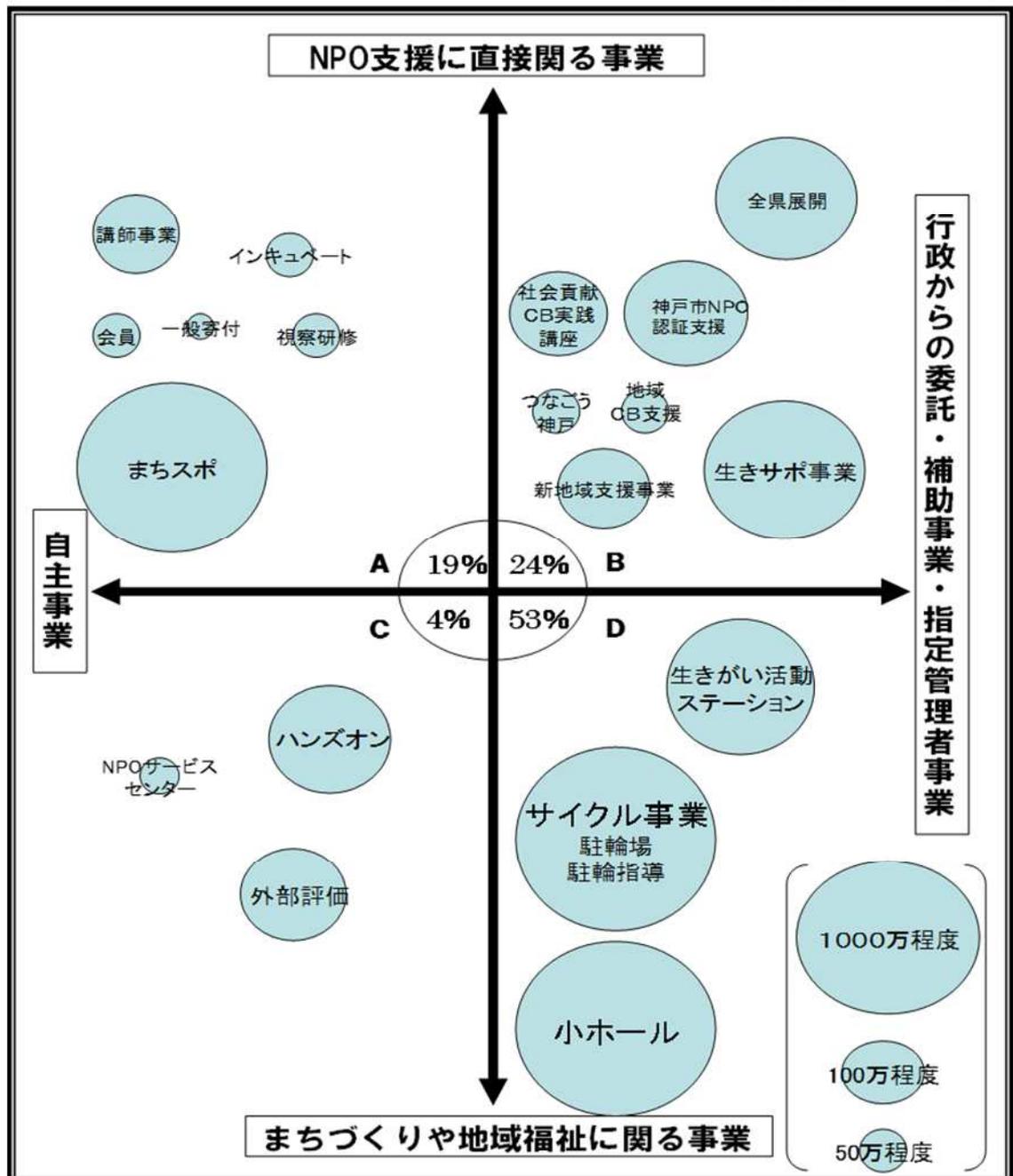
2015 年度会計報告

2015 年度決算は経常収益 88,450,163 円、経常費用 86,586,755 円、当期正味財産増減額 1,863,408 円となりました。詳細は以下の通りです。



CS神戸における事業構成 2015年度決算

総額: 8845万円



新人紹介

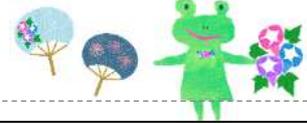
～ 2 名のスタッフが仲間入りしました ～

吉本 弘子【小ホール】

地域で人のつながりづくりを支援するなんて本当は苦手な私。なのになぜか CS 神戸がやっている講座に惹かれて参加するうちに仕事に選んでしまいました。お出会う皆さんと学び合い、ともに歩ませていただきたいと思います。

長岡 聖美【小ホール】

何故ここに！？新しい風を吹かせて下さいとのことですが、どこ吹く風で右も左もわからず奮闘中！よろしくお祈りします！



くまモン募金 & 支援物資のお礼と報告

～ たくさんのご支援・ご協力ありがとうございました ～

2016 年 4 月 14 日に発生した熊本地震被災者への支援として、募金と支援物資の募集をおこないました。ご寄付くださった皆様、また呼びかけに協力してくださった皆様に心より感謝申し上げますと共に結果をご報告いたします。

■支援物資（募集期間：4月19日～5月9日）

【合計寄贈箱数】

20 箱

【寄贈先】

特定非営利活動法人 NPO 法人地域たすけあいの会
(熊本県玉名市)



■くまモン募金（募集期間：4月19日～5月31日）

【寄付総額】

65,507 円

【寄付先】

NPO 法人ケアサービスくまもと サンアンドムーン
(熊本県熊本市)



会員 寄付 お礼

～ 応援いただき、ありがとうございます！ ～

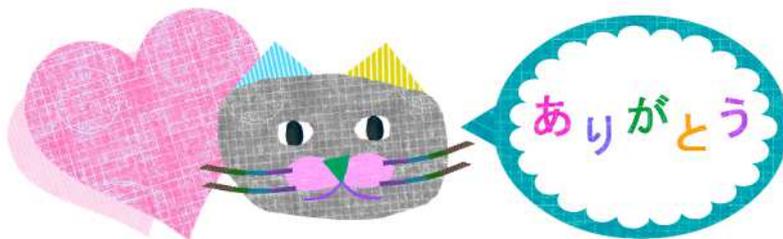
(2016 年 2 月 9 日～5 月 31 日)

【会員】

西村 尚士、峯村 しげ子、神田 典治、西 信弥、今田 忠、井上 怜、三好 祥世、匿名氏、日下 恵子、岡田 雅幸、村上 義弘、NPO 法人ジンジャークラブ、齋藤 征三、重政 和洋、稲田 薫、山添 令子、檜谷 實、野々村 公子、広井 かほる、遠田 豊成、森 功、川上 範男、尾山 宗久、増金 祐次、佐藤 正義、原 祥隆、北川 浩二、西田 幸夫、元井 律子、岩本 圭市、加藤 正博、松元 隆平、立田 英雄、兵頭 修也、平野 久美、檜垣 忠、吉本 弘子、長岡 聖美、山本 好克、足立 勝、新庄 達也、星野 裕志、藤原 和男、小室 邦夫、ヒューマンスキル研究所、朝山 日出夫、小林 義徳、田辺 友也、中村 厚子、中村 順子（順不同）

【寄付】

大和リース株式会社、酒井 やよい（NPO 法人山びこへるぶ）、長澤 マリ、朴 京守、匿名氏、狩野 仁未、飛田 敦子、村上 義弘、中村 順子、中村 厚子、山村 弘美、三菱重工業株式会社神戸造船所（順不同）



前号で一部掲載漏れの方がおられました。今号であわせて掲載させていただきます。

2016 年度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】

個人会費：3,000 円／年

団体会費：10,000 円／年

【振込先】

名義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸
郵便振替 00950-2-144205

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310 / FAX：078-841-0312 / E-MAIL：office@cskobe.com

2016 年 6 月 25 日発行 通巻 79 号（発行人：中村順子 編集人：長井明子）

編集後記 事務所の近くにツバメの巣が出来たと思っていたら、あれよあれよという間に雛が巣立っていきました。また来年戻っておいで。(N)